

表 カナダ投資サミット・カナダ政府が発表した投資コミットメント一覧

<u>年金基金・機関投資家</u>	
<u>カナダ年金制度（CPP）投資委員会</u> ブルックフィールド・アセット・マネジメント	カナダ国内の重要インフラや戦略的産業に投資するため、500 億 C ドル規模の「メープル・ファンド」を設立。
<u>公務員年金（PSP）投資委員会</u>	国内投資を 30%から 40%に引き上げるため 250 億 C ドルを追加出資し、投資総額を 1,000 億 C ドルへ拡大。
<u>オンタリオ州教職員年金基金（OTPP）</u>	2027 年末までに 100 億 C ドルを追加投資。
<u>サン・ライフ・ファイナンシャル</u>	今後 5 年間で重要インフラ（デジタル技術、エネルギー、運輸・物流）に 50 億 C ドルを投資。
<u>主要銀行</u>	
<u>トロント・ドミニオン（TD）銀行</u>	今後 5 年間で 5 分野〔エネルギー、重要鉱物資源、防衛・航空宇宙、デジタル・人工知能（AI）、インフラ〕に 1,500 億 C ドルを融資。
<u>スコシアバンク</u>	今後 5 年間で国内企業・プロジェクトの重要分野に対する支援として 1,000 億 C ドル超を融資。

<u>モントリオール銀行 (BMO)</u>	今後 10 年間で国内の重要分野（エネルギー・交通インフラ、採鉱・重要鉱物、AI・コンピューティング、防衛・安全保障）に 700 億 C ドルを投資。
<u>カナダ帝国商業銀行 (CIBC)</u>	国内の防衛・デュアルユース関連で戦略分野（インフラ、エネルギー、サイバーセキュリティ、デジタル機能、先端技術）に取り組む中小企業に 20 億 C ドルを融資。
<u>カナダ・ロイヤル銀行 (RBC)</u>	テクノロジー企業への商業機会・戦略的提携提供や事業拡大支援を目的に、15 億 C ドル近くを投資。
<u>投資ファンド</u>	
<u>パワー・サステナブル</u>	国内インフラ（電力や送電網、ファイバー・データ通信、環境ソリューション、食料サプライチェーン）に対して 100 億 C ドル超を投資。
<u>ラディカル・ベンチャーズ</u>	AI 分野の新興企業を支援するベンチャーキャピタル (VC) ファンド「ラディカル・ブレイクアウト・ファンド」を立ち上げるため 40 億 C ドルを投資。

<u>大型プロジェクト</u>	
<u>ベル・カナダ</u> サスカチュワン州政府	サスカチュワン州に建設が進む AI データセンター事業を 1.2 ギガワット規模に拡大するため 525 億 C ドルを追加投資。建設、運用、管理、関連サービスなどで、4,500 人以上の雇用を創出する見込み。
<u>政府の規制緩和・成長支援策</u>	
<u>生産性超償却制度の導入</u>	企業が設備投資や研究開発費を即時に損金算入できる制度を導入し、新規投資に対する限界実効税率を約 13% から 6.4% へ引き下げる。首相府の発表によれば、主要国・地域で最も低い税率となり、米国の半分以下となる。
主要空港の民営化 （コンセッション方式）	主要 4 空港*について、土地や資産の所有権は国が維持する一方、長期運営権（コンセッション方式）を活用し、民間投資を呼び込む。これにより得られた数百億 C ドル規模の資金は、次世代に向けたインフラ整備（地方空港の整備、地域交通網の拡充、国内全域を結ぶブロードバンド網）に再投資。 *トロント・ピアソン国際空港、バンクーバー国際空港、モントリオール・トルドー国際空港、カルガリー国際空港。

防衛分野への投資	防衛やデュアルユース技術を手掛ける国内企業の成長を後押しするため、カナダ事業開発銀行（BDC）を通じて合計 7 億 C ドルを拠出。このうち、5 億 C ドルは VC・PE ファンド向けの防衛ファンドへ拠出され、2 億 C ドルは「ストロング・ノース・ファンド」の増額に充て基金規模を 5 億 C ドルに拡大する。
重要鉱物分野への投資	銅とパラジウムを生産するジェネレーション・マイニングの「マラソン・プロジェクト」を支援するため、カナダ成長基金を通じて約 1 億 4,000 万 C ドルを拠出。

（出所）カナダ首相府の発表資料などを基にジェトロ作成